

## 東カリブ諸国機構（OECS）6カ国月間情勢報告

（アンティグア・バーブーダ、ドミニカ（国）、グレナダ、セントクリストファー・ネイビス（セントキッツ）、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

（2021年2月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

### 1. 概況

- 各国で新型コロナ・ワクチンの接種が開始され、各国首脳も接種。ワクチンの多くはインドから提供があったもの。
- 東カリブ中央銀行通貨評議会は、東カリブ諸国経済成長率をコロナ禍前の3.2%予測から▲15%に下方修正、観光産業は75%減少との予測を発表。
- ドミニカは、EUの非協力的な税制を持つ国のブラックリストに再度掲載された。
- セントビンセントのラ・スフリエール火山活動は、警戒レベルはオレンジで変更無いが、新たなドームは拡大を続け、活発にガスを排出している。

### 2. 内政

#### （1）新型コロナウイルス

- 1日付アンティグア紙は、バーブーダ島では同日より午後8時から午前5時までの夜間外出禁止を実施すると報道。
- 1日付セントビンセント紙は、国内感染者が千人を超え、この46日間で10倍となったと報道。
- 2日付セントルシア紙は、ジャスネ首相は3日より午後7時から午前5時までの夜間外出禁止を含む緊急事態措置を実施すると述べたと報道。10日付同国紙は、関連規制措置は2月16日まで延長されたと報道。23日、政府はアルコールの販売禁止措置を25日に解除すると発表。
- 3日付セントキッツ紙は、保健当局はワクチン接種者も入国後14日間の検疫対象となることに変更はないと述べたと報道。
- 3日付セントビンセント紙は、米疾病予防管理センター（CDC）は、同国をレベル4の高リスク国に指定したと報道。
- 5日付ドミニカ紙は、インド政府は、スケリット首相からモディ首相への直接の要請に基づき、ドミニカに7万回分、3万5千人分のアストラゼネカ・ワクチンの寄贈を決め、近く搬送されると報道。
- 5日付セントルシア紙は、5日257人の新規感染が確認され、総感染者数は1,557人となった、マスク着用が義務化されたと報道。
- 8日付セントビンセント紙は、同日103人の新規感染が確認され、総感染者

数は1, 283人となったと報道。9日、ゴンザルベス首相は、ロシア製スプートニク・ワクチンを接種したと発表。11日付同国紙は、保健省はロシア製ワクチンの使用を承認すると発表したと報道。

●9日付セントキッツ紙は、政府は英国、ブラジル及び南アからの渡航者は同国への入国を認めない、自国民の帰還は認めるが、政府への許可申請が必要とする30日間の渡航注意を発出したと報道。

●9日付セントルシア紙は、同国入国者は、必要なPCR検査結果を到着7日前から5日前内に実施したものと変更されたと報道。

●10日付セントキッツ紙は、バルバドス及びドミニカはインドから輸送された17万回分のアストラゼネカ・ワクチンを他の東カリブ諸国と共有すると述べたと報道。11日付各国紙は、バルバドスないしドミニカからワクチンが輸送される予定と報道。

●10日付ドミニカ紙は、同国はアンティグアを高リスク国に指定したと報道。

●10日付グレナダ紙は、スティール保健大臣は、夜間外出禁止の時間を午後10時から午前4時までに変更して継続すると発表したと報道。17日付同国紙は、夜間外出禁止が午前0時からに変更されたと報道。

●12日付ドミニカ紙は、サバリン大統領が最初にワクチン接種を受け、大統領夫人、保健大臣等が続いたと報道。23日付同国紙は、スケリット首相がワクチン接種を受けたと報道。

●13日付グレナダ紙は、ミッチェル首相は、最初のワクチン接種を受けたと報道。

●14日付セントキッツ紙は、同国がワクチン2千回分をドミニカから受領したと報道。22日、政府情報局は、ハリス首相がワクチン接種を受けたと発表。

●17日付ドミニカ紙は、現地中国大使館は、中国は2万回分のワクチンをドミニカに提供すると発表したと報道。

●22日付アンティグア紙は、ブラウン首相は中国からワクチンの供与の約束を得ている、中国のワクチンは同国では承認されていないが、専門家委員会での検討を要請したと述べたと報道。

●23日、セントビンセント政府は、入国者は、事前到着フォーム手続き及び入国時の健康申告書手続を必要とし、PCR検査陰性証明書の保持、到着時の検査(鼻咽頭スワブ法)が課される、ブラジル及び南アからの渡航者は21日間の検疫が必要との措置を公布。

●24日付セントキッツ紙は、米国は、国際赤十字赤新月社連盟及びユニセフと連携して、セントキッツ赤十字社に救急車を寄贈したと報道。

●26日、OECSは、インドからチャーター機によるワクチンを輸送便が26日にセントルシアに到着し、そこから加盟国に配布される、チャーター機費用2

5万米ドルは東カリブ中央銀行が負担すると発表。

● 28日付セントキッツ紙は、インドから2万回分のワクチンが同日到着すると報道。

### (2) その他内政

● 9日付セントルシア紙は、シャスネ首相は、今年の総選挙実施について、7月の任期満了後、3ヶ月以内の延長が認められているが、法的期限内に実施すると述べたと報道。

● 15日付セントキッツ紙は、本年最初の6週間におけるネービス島での犯罪発生件数は26件と、昨年同期の14件から増加したと報道。

● 26日現在、セントビンセントのラ・スフリエール火山活動は、警戒レベルはオレンジで変更無いが、新たなドームは拡大を続け、活発にガスを排出しており、引き続き注意を要する状態。米国地質調査機関（USGC）が4台の観測地点設置機材及び通信無線機を寄贈した。

### 3. 経済

● 2日付ドミニカ紙は、チャールズ観光大臣は25年までに来訪観光客20万人を目標とすると述べたと報道。

● 2日付グレナダ紙は、同国政府はUNDPと協力して、農業分野の気候強靱性を強化するプロジェクトを開始したと報道。

● 3日付セントビンセント紙は、台湾は民間団体からの衣服、医療関連等の支援物資1,089個（約14万米ドル相当）を国家動員省に寄贈したと報道。

● 8日付セントビンセント紙は、東カリブ中央銀行は3月末までにポリマー紙幣の5ドル新札発行する予定と報道。

● 9日付アンティグア紙は、ハースト首相府首席補佐官は、中国から5千万米ドルの借款供与申し出があったが、債務負担を考慮しその半額程度の6千万東カリブドルの借款を検討中と述べたと報道。

● 12日、東カリブ中央銀行通貨評議会が開催され、その声明の中で、東カリブ諸国経済成長率はコロナ禍前の3.2%予測から▲15%に下降し、観光産業は75%減少との予測を発表。

● 13日付セントキッツ紙は、ネービス島災害管理局は、米軍南方部司令から2万8千米ドル相当の人道支援物資を受けたと報道。

● 16日、セントルシア政府は、日本の無償資金協力によるカルデサック流域橋梁架け替え計画の工事が開始されたと発表。

● 18日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相は、1月の政府歳入が昨年同期比で1,300万東カリブドル減少したと述べたと報道。

● 21日、OECSは、16日にOECS農業大臣会合を開催し、FAOのコロ

ナ禍の投資イニシアティブ及びOECS食料農部門復興及び変革計画を協議したと発表。

●22日、ドミニカ政府は、同国120メガワットの地熱発電所が22年に建設される予定となり、国内電力価格の引き下げ及び近隣仏領への電力輸出が可能となると報道。

●23日、セントルシア政府は、7月からジェットブルーが米国ニューアーク空港との直行便、アメリカン航空がダラスとの直行便を就航させることを歓迎すると発表。

●24日付ドミニカ紙は、同国はEUの非協力的な税制を持つ国のブラックリストに再度掲載された、政府はグローバルフォーラムと協議しており、EUが求める法改正等を行えば、次回のリストには除外されると確信していると述べたと報道。26日付セントルシア紙は、ゴンザルベス・セントビンセント首相はEUがドミニカをブラックリストに掲載したことを強く批判したと報道。

#### 4. 外交

●5日付ドミニカ紙は、ドミニカ・ハイチ友好協会は、ハイチ人のドミニカへの不法入出国が相次いでいることを非難したと報道。

●8日付セントビンセント紙は、政府はキューバ医療チームを21年ノーベル平和賞に推薦したと報道。

●13日付セントキッツ紙は、10日及び11日にシートン総督は兼轄国9カ国の大使からの信任状捧呈をオンラインで実施したと報道。

●16日付ドミニカ紙は、スケリット首相は、OECS議長として女性初のWTO事務局長となったオコンジョイウェアラ新事務局長を支持すると述べたと報道。

●18日付ドミニカ紙は、ダルー外務大臣はテレビ番組の中で、米国との関係は非常に良好であり、米国は地域の安全保障に重要な貢献を行っており、ドミニカも国連決議等の際に多くの場合米国を支持していると述べたと報道。24日付ドミニカ紙は、米国は80万米ドル相当の巡視船2隻を供与し、ドミニカの国境警備強化を支援すると報道。

●23日付セントビンセント紙は、同国とキューバの間で受刑者移送条約が署名されたと報道。

●26日付グレナダ紙は、グレナダとシエラレオーネ両国の国連大使の間で外交関係樹立の共同声明が署名されたと報道。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。